

(12) 日本の飲酒運転事故の発生状況

(自工会資料)

1. 事故解析に用いたデータ

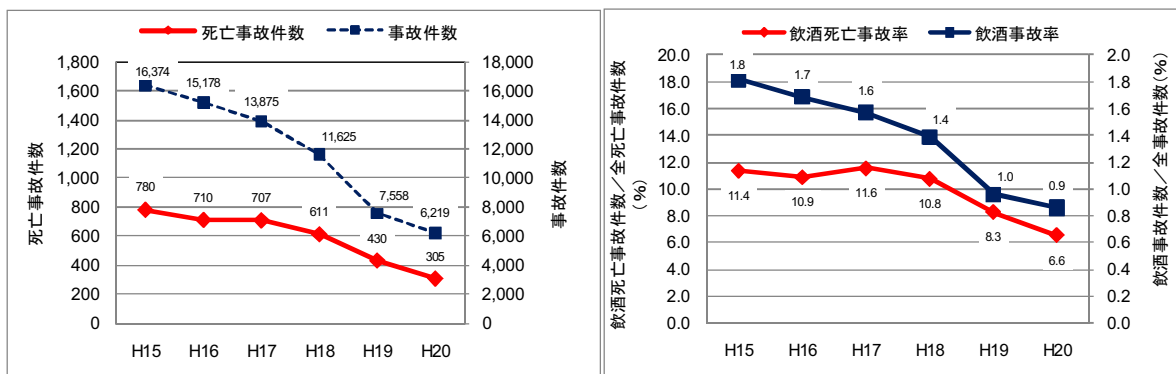
平成15年から平成20年までに発生した交通事故について、下記項目のマクロ分析を(財)交通事故分析センターに依頼した。

- ・1当原付以上の飲酒有無別の事故件数および死傷者数
- ・飲酒あり：酒酔い，酒気帯び(0.25mg/L以上)，酒気帯び(0.15mg/L以上-0.25mg/L未満)，基準以下(0.15mg/L未満)，検知不能
- ・飲酒なし

2. 飲酒運転事故件数

(1) 飲酒運転事故件数の推移

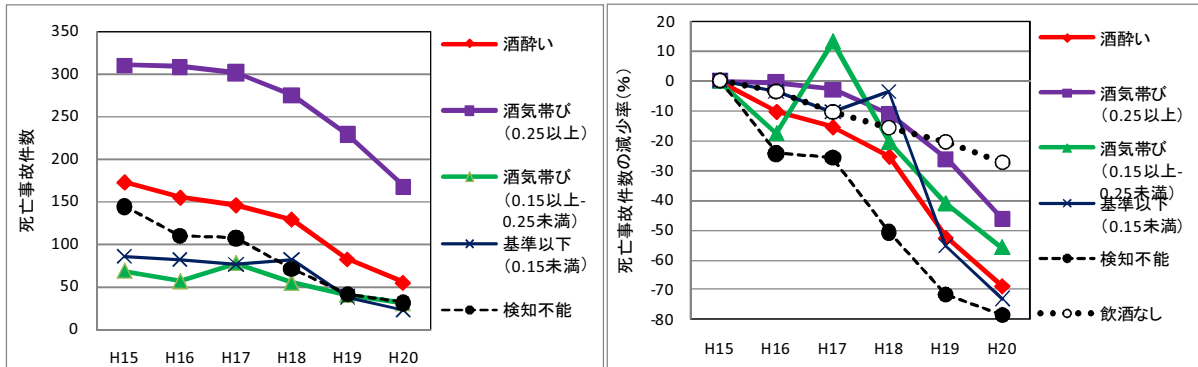
平成20年の飲酒運転死亡事故件数は305件であり、平成19年(430件)に比べて29.1%減少した。全死亡事故件数に占める飲酒運転死亡事故件数の比率も、平成19年の8.3%に比べて平成20年は6.6%に減少したが、飲酒運転事故件数の発生比率の減少の程度は小さい。



飲酒運転事故件数と全死亡事故件数に占める飲酒運転死亡事故件数の比率の推移

(2) 飲酒レベル別の飲酒運転死亡事故件数と減少率の推移

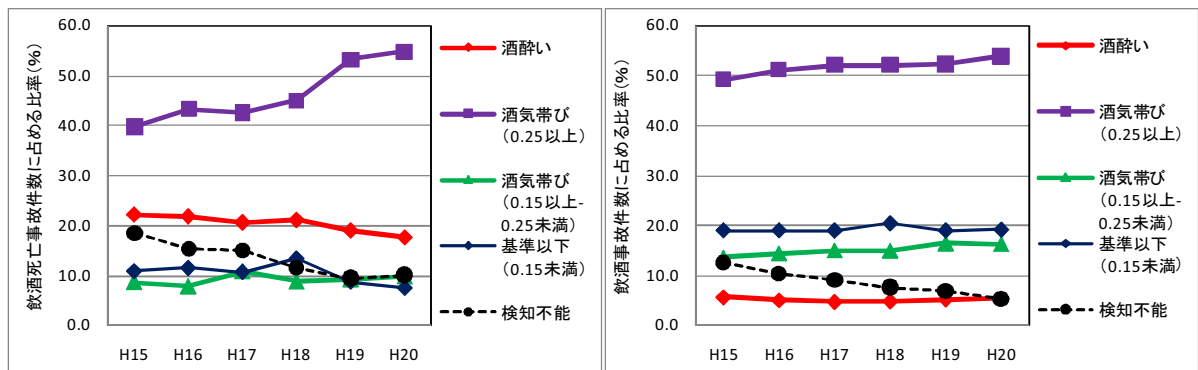
飲酒レベル別で見ると、酒気帯び（0.25mg/L以上、（酒酔い含む））が飲酒死亡事件数の72.5%を占めている。さらに、飲酒レベル別の死亡事件数の減少率について、平成15年と比較すると、0.25mg/L以上が他に比べて小さく、呼気アルコール濃度が高い違反者に対する事故への対策が最も必要といえる。



飲酒レベル別の飲酒運転死亡事故件数の推移

(3) 飲酒レベル別の飲酒運転事故件数の推移

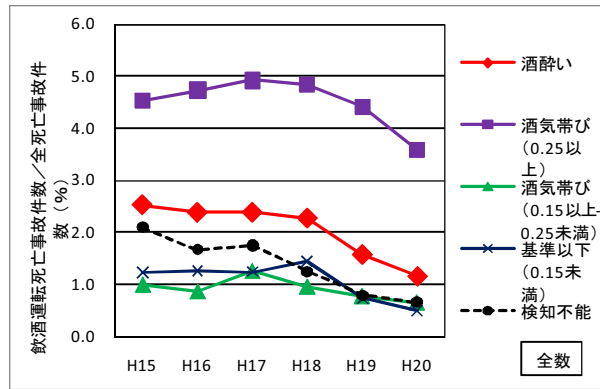
飲酒レベル別の飲酒運転事故件数は、酒気帯び（0.25以上）が半数以上を占め、いずれも増加しており、特に、死亡事故に占める比率の増加が著しい。



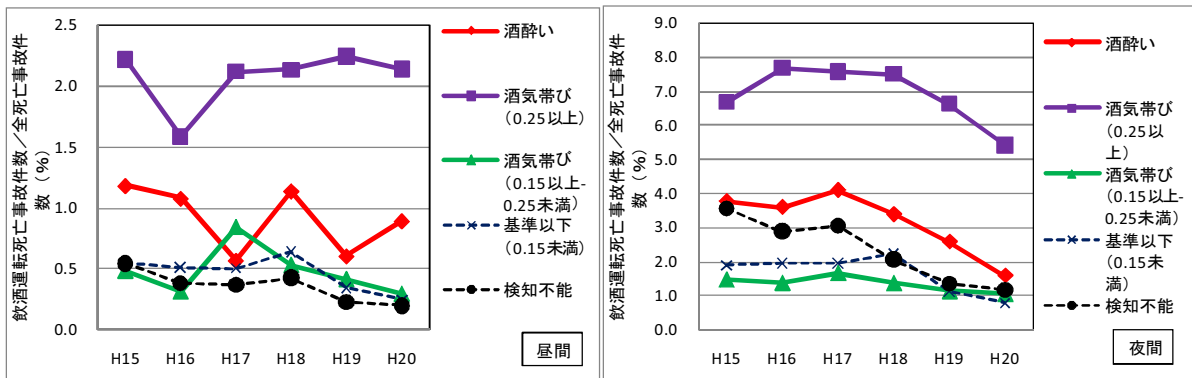
飲酒レベル別の飲酒運転事故件数の推移

(4) 全死亡事故件数に占める飲酒レベル別の飲酒運転死亡事故件数の比率の推移

全死亡事故件数に占める飲酒レベル別の飲酒運転死亡事故件数の比率は、平成18年以降、いずれの飲酒レベルにおいても減少傾向である。これは、夜間の発生件数比率の減少によるものであり、昼間においては、酒気帯び（0.25以上）の発生比率は、平成17年以降であり、酒酔いも増減を繰り返していることから、多量飲酒者への対策が必要と考えられる。



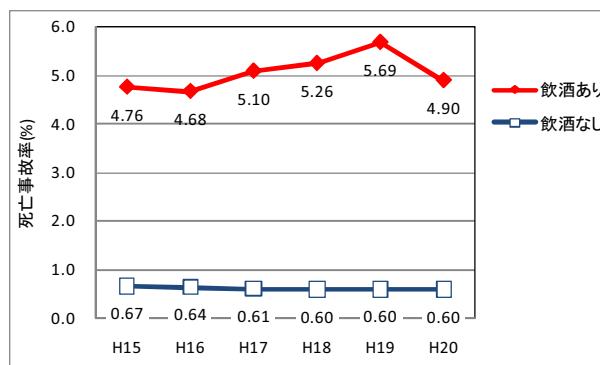
全死亡事故件数に占める飲酒運転死亡事故件数の比率の推移（全数）



昼間と夜間の全死亡事故件数に占める飲酒運転死亡事故件数の比率の推移

(5) 飲酒有無別死亡事故率の推移

平成 20 年の死亡事故率は、飲酒なしが 0.6%で、平成 15 年以降漸減している。飲酒ありでは、平成 19 年まで漸増していたが、平成 20 年は 4.9%に減少した。



飲酒有無別事故の死亡事故率の推移

$$\text{死亡事故率 (\%)} = \text{飲酒運転死亡事故件数} / \text{交通事故死亡事故件数} \times 100$$